

WHILL利用での変化

ウィルを生活に取り入れてからは、自宅から5分ほどの距離にあるスーパーへの買い出しなど日常生活で使うほか、坂を上った先にある馴染みの喫茶店にも日常的にモーニングへ通っています。趣味のカラオケも定期レッスンを再開し、地域の大会でもう一度ステージに立つという新たな目標にチャレンジしています。

	週末の過ごし方	外出への心理的ハードル	行動意欲	人との交流
利用前	 自宅でテレビを見ながら過ごす	 食材の買い出しもつらく、外出自体が億劫だった	 何かしたい・出かけたい 気持ちはあってもあきらめる	 在宅が多く、家族との会話がメイン
利用後	 毎週末の カラオケのレッスンを再開	 移動の負担が軽減され、 気軽に出かけられるように	 行動意欲 「まだまだできる」と自信につながり、 新たな目標にも挑戦	 趣味のカラオケ仲間との 会話機会も増え、 生活にハリが生まれた

ウィル モデル アール ケー

WHILL Model RK

近距離モビリティ

免許不要、歩道での走行可能

介護保険制度でレンタルの場合
レンタル事業者へお問合せください

TAISコード 01520-000035

貸与マーク 取得済



スペック詳細

走行可能距離	17.2km ※路面状況などにより変化
最高速度	6km/h
段差乗越	5cm
登坂力	10度
最小回転半径	97cm
サイズ (全長×全幅×全高)	1,160mm×535-635mm× 868-925mm
重さ	56.8kg
充電時間	5時間
最大荷重	147kg

こんな方におすすめ



日々の充電を 快適にしたい

バッテリーは室内で、
機体は駐輪場で保管でき
ます。



狭い場所でも スムーズに動かしたい

最小回転半径97cmで、
小道や駐輪場での操作が簡
単です。



快適な乗り心地を 求めている

悪路でも衝撃を吸収し、
体への負担を軽減します。

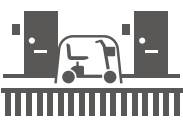
駐輪場などの共用スペース*を活用した保管が可能



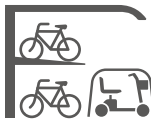
ガレージ



玄関の外



マンションの廊下



駐輪場

バッテリーのみ取り外して
室内で充電できます。
*保管については各管理会社へお問い合わせください。

電動車椅子ウィルとは

ちょっと遠くのお気に入りのスーパーや図書館、公園、美術館まで。ウィルは「今日どこへ行こう」をかなえる電動車椅子です。誰でも簡単に運転できる操作性と、行く場所を選ばない小回り性能を備えています。介護保険レンタルにてご利用可能ですので、貸与事業者様にお問い合わせください。

ウィル

WHILL 株式会社  0120-696-527 平日9:00~18:00
※通話料無料

WHILL Model Rの

紹介動画もご用意しております。

こちらの
QRコードから
ご覧いただけます。



ウィル

WHILLケアプラン vol.06

私らしい生活支援

作成:WHILL株式会社



WHILLケアプランとは…介護が必要になると、生きること（例：食事、排泄、移動、入浴）に手間や時間がかかります。しかし、生きることをサポートしてもらっても楽しくなるわけではありません。食事が楽しいのは「どんな時に・だれと・どこへ行って・いろいろなメニュー」を選ぶから。そこで必要になるのが「移動」。気がねせずに「好きな時に好きなところに」行けること。被介護者の「**私らしい生き方**」をどうサポートできるか。**WHILLを使ったケアプランで被介護者の「やってみたい」を応援します。**

今回の被介護者



Tさん **要介護1**

男性 / 80代後半 / 165cm・60kg

ご自宅生活中

- ☒ 膝の痛みにより、立ち上がりや歩き始めに痛みがある。
- ☒ ゆっくりとした歩行が可能。
- ☒ 半年前に運転免許を返納し、移動手段は徒歩のみ。
- ☒ 毎週末に友人と会う馴染みの喫茶店が坂の上にあり、上ることがややつらい。

Tさんの日常生活のポイント ☒

1 同居家族



奥様と二人暮らし

2 住居環境



マンションの4階に居住

3 現在利用中の福祉用具



1点杖

4 新たに利用する福祉用具



WHILL Model RK

5 日常生活での楽しみ



近所の公園へ行き、
池の周りを散歩すること



喫茶店に行って、
常連客や店主と会話すること



大好きな昭和歌謡を
口ずさむこと

Tさんは、長年親しんだ車の運転免許を返納した後は移動手段が徒歩のみとなり、さらに膝の痛みも強くなってきたため、外出自体が大きなハードルとなっていました。近所で電動カートに乗っている人を見かけて「自分も乗りたい」と思い、担当ケアマネジャーに相談。普段は**マンションの駐輪場にウィルを停め置き、毎回バッテリーを取り外して自宅で充電**しています。狭い共用通路でも、**その場で旋回や方向転換ができる取り回しのよさが気に入っており**、気軽に出かけられそう、とうれしそうに話します。

ご本人を知る～現状（WHILL利用前）

1. Tさんの性格・趣味・現状の生活を把握する



性格・職業歴	おおらかで明るく、豪快な笑い声が魅力。〇〇市役所に長年勤め、地域の人人や同僚からも信頼を寄せられてきた。今でも当時の同僚とは半年に一度集まり、近況を語り合いながら昔話に花を咲かせる。休日は妻と近所の公園を散歩したり、馴染みの喫茶店でモーニングを味わう時間を大切にしている。
趣味・こだわり	趣味はカラオケ。運転免許返納後は、公民館で行われていた週1回の定期レッスンから足が遠のいており、もう一度仲間と一緒に歌いたいと望んでいる。地区のカラオケ大会では、これまで何度もステージに立った経験があり、いつかスポットライトの下で、大好きな昭和歌謡を歌い上げたいという夢を持っている。
疾患歴	●階段の上り下りで膝に痛みを感じ、特に起床時や長時間座った後はこわばって動きにくい。 ●膝への負担を減らすよう注意して生活している。高血圧の持病があり、現在薬を服用中。 ●医師の指導で減塩しょうゆやみそを使うなど食生活を工夫し、体力維持のため軽い運動も心がけている。 ●症状を悪化させないよう日々意識して過ごしている。
生活習慣	●食事は1日3食を同じ時間帯に規則正しくとり、飲酒はしない。 ●自宅から徒歩10分ほどのスーパーに買い物へ行くが、帰り道は食材や日用品の重さが膝に負担となる。 ●途中のベンチで休みながら帰宅することもしばしば。 ●「もっと楽に動ければ、買い物や外出も気軽になるのに」と感じている。 ●日常の移動を少しでも快適にしたいと願っている。

ケアプラン ～Tさんの意思・課題に沿ったサービス計画～

居宅サービス計画1

本人及び家族の生活への意向を踏まえた課題の分析の結果	〈利用者の意向〉以前のように好きに散歩したり、喫茶店でコーヒーを飲んだり、大好きなカラオケの練習にも行きたいのですが、膝の痛みが強くなってきたため近頃は外出自体の頻度が減ってしまっていました。息子夫婦にはまだ頼りたくはなく、買い物や通院などできるだけ自力で生活をし続けたいです。 〈妻の意向〉二人で近所のスーパーへ買い物に行ってますが、膝の痛みがあるせいか、時々つらそうにしているのでベンチで休んだりしています。近くの公園には、これからも梅やキンモクセイ、寒椿を見に行きたいなと思っているのですが、膝のことで外出ができなくなってしまうのを心配しています。
----------------------------	---

居宅サービス計画2

生活全般の解決すべき課題（ニーズ）	援助目標				援助内容		
	長期目標	（期間）	短期目標	（期間）	サービス内容	サービス種別	（頻度）
ウィルを使いこなして、カラオケの定期レッスンに通い、地区大会のステージに立ちたい	自宅からカラオケのレッスンが開かれている公民館まで、ウィルを使って安全に移動できるようになる	6か月	自宅から 徒歩20分 ほどの公民館まで、 安全に移動 できるようになる	3か月	①ウィルの操作マニュアルの指導を受け、公民館のほか自宅周辺、公園の砂利道などさまざまな道路環境で練習する ②操作ができているか定期的にモニタリング	①本人/福祉用具相談員 ②本人/福祉用具相談員	①週2回 ②随時
			膝の痛みが悪化しないよう、 杖などを使って15分ほど歩くことができる ようになる。	3か月	①腕や握力の筋力トレーニングを行う ②膝に負担がかからないように立ち上がる ③毎日の歩行時間と歩数を記録する	①本人 ②本人 ③本人	週2回

居宅サービス計画3

週間サービス計画書

		月	火	水	木	金	土	日	主な日常生活上の活動
早朝	8:00								
			喫茶店		喫茶店			喫茶店	起床
午前	10:00								
	12:00	通院		筋トレ		筋トレ			
午後	14:00								昼食
	16:00	スーパーで買い物	スーパーで買い物	スーパーで買い物	カラオケのレッスン	スーパーで買い物	カラオケのレッスン	公園を散歩	
	18:00								
	20:00								夕食・お風呂
夜間	22:00								就寝

週単位以外のサービス	福祉用具(ウィル、杖)
------------	-------------

軽度者*に対する電動車椅子の貸与については、

「日常生活範囲における移動の支援が特に必要と認められる者」とケアマネジャー等**が判断した場合は、市町村への確認依頼は不要です。

*要支援1/2および要介護1と認定された方（軽度者）

**ケアマネジャーまたは地域包括支援センター担当職員

日常生活範囲における移動の支援が特に必要と認められる者は、主治の医師から得た情報および福祉用具専門相談員が参加するサービス担当者会議等を通じた適切なケアマネジメントにより、ケアマネジャー等が判断します。

***市区町村によっては医師の診断書の提出が必要な場合がございます

軽度者申請理由の例

変形性膝関節症により、立ち上がりや起床時に痛みがあり、

買い物などでの長時間の移動や荷物を持つての歩行の負担が大きく、休み休みとなっている。

膝への負担を減らしながら、自立的な日常生活を維持するために電動カート（電動車椅子）が必要である。